



---

凌和電子株式会社  
環境・安全報告書

Environmental and Safety Report

---

2023



# CONTENTS

—目次—

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 基本理念	3

## Environmental

4. 環境マネジメントシステム	4
5. 2022年度環境目標及び活動実績	5
6. 環境配慮型製品の提供	6
7. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移 個別のエネルギー使用の内訳	7
8. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	8
9. 環境教育	9
10. 環境監査	10
11. 環境リスクマネジメント	11
12. 環境コミュニケーション	12
13. 地域貢献・工場独自の活動	13-14

## Safety

14. 安全衛生管理	15-16
15. 会社概要	17
16. 環境負荷マスマランス	18

### 編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)を導入した2006年以來、当社の環境活動をステークホルダーの皆様にご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。

今回は18年目となり、環境目標に掲げた活動や安全衛生活動、BCP、また社会貢献活動についても併せて紹介しています。

内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」「工場独自活動」等の活動と併せ、地域社会との共生として社会貢献活動や行政施策への関わりも含めてご紹介しております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン」を参考としています。また、弊社ホームページからご覧いただけます。

### 報告対象範囲

●報告対象期間  
2022年7月1日～2023年6月30日  
(2022年度)

●報告対象  
凌和電子株式会社

〔 本社、本社工場、元町工場※、  
山形工場、一関システムセンター  
テクノワークス仙台東※ 〕

※元町工場は2023年4月末に営業終了となり、テクノワークス仙台東へ移転となりました。

# 2 トップメッセージ

技で作る  
知恵で造る  
心で創る

テクノワークス仙台東 操業理念  
～2023年5月1日開業～



環境・安全報告書2023年版を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社は昨年7月に創立50年を迎え、本年は新たな50年へ向けた最初の年となりました。これもひとえにすべてのステークホルダーの方々の長年にわたるご指導とご支援の賜物と心より深く感謝申し上げます。

さて、今般の新型コロナウイルスやウクライナ戦争の影響による原材料の高騰と部品類の入手難、加えて急激な円安は、当社のみならず国内製造業全体の厳しい試練となっています。そのような中ではありますが、5月には新たな拠点「テクノワークス仙台東(TWSE)」が完成・開業しております。当社の旗艦(フラッグシップ)工場として、一層の技術開発力と生産効率の向上を図り、この試練に全社一丸で立ち向かっております。



テクノワークス仙台東

環境方面では、地球温暖化をはじめとする多種多様な問題があり、国連は17の目標(Goal)からなる持続可能な開発目標(SDGs)を定め、新しい価値創造と持続可能な社会を実現することを求めています。

SDGsの精神は、サステナブルな企業であるためにも重要であると考えており、ISO活動等を通じて社員へも浸透を図っております。昨年策定した第3次中期経営方針では技術面、環境面、人的資本それぞれ考慮したものとし、向かうべき方向性として示しました。当社はこれらの活動でSDGs実現に貢献し、企業価値の向上を目指してまいります。

本報告書は当社の地球環境保全や安全衛生への取り組み、2022年度の活動実績をまとめたものです。これらの活動はSDGsに通じる部分が多分に含まれるため、関連性も含めて併記しております。

当社はこれからも地域に根差し、お客様に選ばれるモノづくり企業であり続けるよう努力を重ねてまいります。ステークホルダーの皆様には引き続きご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2023年10月1日  
凌和電子株式会社 代表取締役社長

安藤仁司

# 3 基本理念

## ●基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に展開しています。なお、2022年7月から新たな中期経営方針(5年毎)を定め展開しています。



## 企業理念

凌和電子株式会社は  
「創造と奉仕の精神」をモットーに  
日々、技術の研鑽に努め  
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで  
社会に奉仕します。

2009年1月1日  
凌和電子株式会社  
社長 安藤仁司



## 経営品質方針

### 基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

### 行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

1. 規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
2. 新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
3. 改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
4. 当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
5. 顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。



## 環境方針

### 基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

### 行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。



## 中期経営方針

### スローガン

極める心  
やり抜く力

～目標達成のため更なる高みを目指す～

### 1.意欲と活気ある職場作り

～はつらつ笑顔あふれるいきいき職場～

- ◆人的リソース配置の適正化
- ◆能力開発による多能工化推進
- ◆女性の積極登用と雇用形態の多様化

### 2.責任ある事業活動、生産活動

～活動目標必達意識、意欲の醸成～

- ◆パートナーシップによる効率的な生産活動
- ◆営業情報×生産情報の共有化で連携強化
- ◆PDCA回転による高い業務品質の追求

### 3.社会が求める生産活動

～持続可能な社会作りに寄与する

事業活動～

- ◆環境にやさしいものづくり推進
- ◆市場動向、ニーズにフィットした技術開発
- ◆先見性ある新分野への積極アプローチ

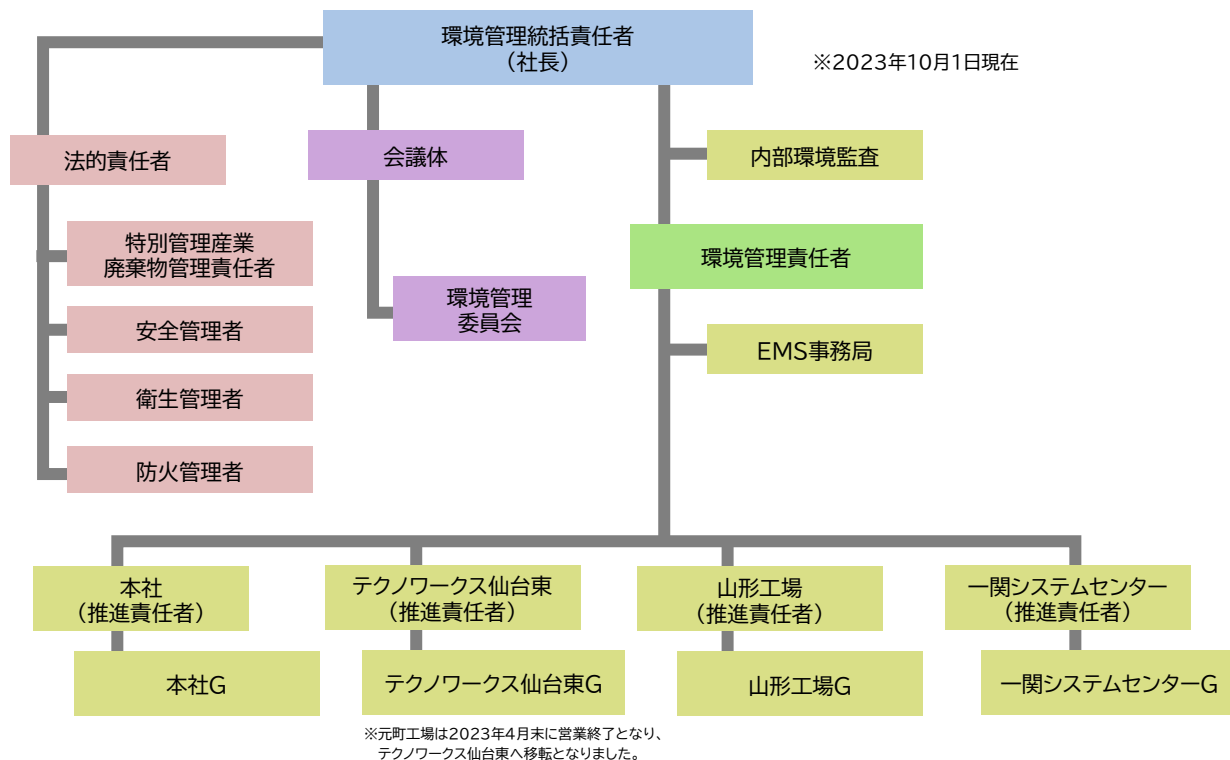
### 4.その他各部門の独自施策

# 4

# 環境マネジメントシステム

当社の環境管理体制は、2009年1月から社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。各工場には推進責任者を置き、活動の取りまとめを行っています。

## ●環境管理体制



## ●持続可能な開発目標(SDGs)

2015年、国連において「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。これは、2030年に向けた持続可能な開発に関する17の目標と169のターゲットからなり、全世界が取り組むことによって、より良い国際社会の実現を目指すものです。当社も社会の一員として、SDGsを意識しながらCSR活動に取り組んでいきます。



## ●ISO14001(2015)認証維持

2022年10月にISO2015年版の維持審査を受け、認証維持となりました。

### 適用範囲:

- ・本社、本社工場(宮城県仙台市若林区南材木町48)
- ・元町工場(宮城県仙台市若林区六丁の目元町9-2)
- ・山形工場(山形県山形市高原町1483-1)
- ・一関SC(岩手県一関市東台14番地43  
一関ロジスティクスセンター4階)

### 認証登録機関:

Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.

### 認証登録番号:

4564350

※テクノワークス仙台東は2023年10月に変更審査を受け、認証取得する予定です。



# 2022年度環境目標及び環境実績

当社は、中期計画に基づいた環境マネジメントプログラムを策定しています。活動には、改善を目指す“改善活動”と社員に定着した“維持活動”の2種類があり、各項目を分けています。これらの活動はSDGsにも繋がるものであり、関連する目標には各Noのロゴを入れてあります。環境活動に取り組む中で、社員全員が関わりを持ち、SDGsへの貢献を自覚しながら活動しています。

## ●2022年度活動実績(報告範囲:本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC)

中期計画に基づき、全社目標として改善項目2項目、維持項目5項目を掲げています。

2022年度は中期計画の初年度となり、結果として各工場とも概ね目標達成、または指標値以内となりました。一般廃棄物の項目が×となりましたが、これは元町工場移転による片付けが原因であり、通常の排出については問題はありませんでした。2022年度は、4月より上記工場移転による引っ越しを行いましたので、本社・元町については3月までの実績で評価を行っています。

評価基準 ◎:中期計画をクリア ○:計対比100%以上達成 △:90%以上達成 ×:90%未満

実績算出 実績値(%):2022年度計対比/[]は同原単位比(人員ベース)

※2022年度の本社・元町のデータは、4月からの工場移転による引っ越しの為、3月までの実績で評価しています。

No.	項目	関連するSDGs項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
			中期計画 2026年度	年度計画 2022年度	実績 (計対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供		全製品環境配慮型化の推進継続	新規製品アセスメント100% 環境配慮型製品登録80%以上 ※自主的RoHS 12件 ※RoHS10対応3件	アセスメント100% 登録100% ※自主的RoHS 12件 ※RoHS10 7件	○	P.6
2	地球温暖化ガスの排出削減		5か年(17~21年)平均CO2排出実績比△0.5%以下	5か年(17~21年)平均CO2排出実績比△0.1%以下	△5.3% [+8.4%]	◎	P.7
3	廃棄物の排出削減(一般廃棄物)		2022年度指標維持継続	5か年(17~21年)平均実績値以下	+80.2% [+105.1%]	×	P.8
	廃棄物の排出削減(産業廃棄物)		ゼロエミッション維持継続	再資源化率95%	全工場:100%	◎	P.8
4	紙資源の削減(購入量)		2022年度指標維持継続	5か年(17~21年)平均実績値以下	△25.9% [△18.8%]	◎	P.8
	節水活動の推進(水使用量)				△17.6% [△7.0%]	◎	P.8
5	環境リスクの低減		環境コンプライアンスの拡大強化	緊急事態対応訓練の実施	各工場訓練実施	◎	P.11
6	ワイス用品のグリーン調達(調達率)		100%継続	100%継続	100%	◎	-
7	環境コミュニケーション		環境安全報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース 12回発行	◎	P.12
			エコ生活推進	情報提供(原則隔月)	環境ニュース特集号 7回発行	◎	P.12
			地域・行政への協力	地域・行政への協力3件以上	・Fun to Share参加登録 ・カルピス、ウォルビズ運動参加 ・山形まるごとCOOL CHOICE事業所登録 ・仙台市まち美化サポーター更新・活動 ・エコにこゴールドマイスター認定・更新 他	◎	P.12
			工場独自活動の強化(部署毎+社会貢献)	工場独自活動の強化(部署毎+社会貢献)	全工場で実施	◎	P.13~

※No.1, 2は改善活動 No.3, 4, 5, 6, 7は維持活動

→No.1のRoHS目標については努力目標としています。

※No.1の「自主的RoHS」とは、客先指定がなくとも自主的にRoHS対応とした製品のこと

※工場独自の活動は改善活動とし、P.13以降にご紹介しています

維持活動の管理は指標値を基準として10%増までは管理内とする

# 6

# 環境配慮型製品の提供



当社では環境へ配慮した製品を創出することで、お客様や社会全体への環境改善への貢献を目指しています。当社は一品一様のものづくりを主としていますが、製品アセスメント評価を行っています。ライフサイクルの視点で環境への配慮が認められたものについては「環境配慮型製品」として登録する仕組みです。



## 製品アセスメント5つのポイント

当社は環境配慮型製品を提供するために、新規設計製品はアセスメント評価を行っています。“ライフサイクルの視点”を考慮するための、5つのポイントと併せて現場の声をご紹介します



## 凌和電子の環境配慮製品事例

### CO2モニター/暑さ指数モニター 快傑！むすび丸

空気中のCO2濃度・暑さ指数をそれぞれ計測する装置。感染症対策に、熱中症対策に、様々な空間やシチュエーションでお使いいただける可愛い商品となっています。

#### 特徴

- ・簡易構造で分解容易
- ・自主的RoHS6対応
- ・分別表示あり
- ・廃棄時情報の提供
- ・三密対策、熱中症対策の効率化



設置場所の状況をモニターで見える化。過密状態または熱中症危険状態になるとアラームとほっぺの赤点灯でお知らせします。

#### むすび丸とは？

仙台・宮城のおいしいお米でふっくら炊き上げた『おむすび』顔に、『伊達政宗公の兜飾り』が特徴の仙台・宮城観光PRキャラクターです。

## VOICE

### もっと身近に凌和の製品を

当社の自社製品「快傑！むすび丸」は、新型コロナウイルスの流行で広がった三密対策や熱中症対策に活躍する商品です。当社の通常のモノ作りは、会社対会社(BtoB)のものでありますが、この製品は一般の消費者へ向けたBtoCの製品となっています。今までよりも広く身近

に当社の製品を感じていただけるものとなりました。むすび丸とのコラボは社員の思い付きから始まりましたが、結果として機能だけではないインパクトのある商品となりお客様からも好評をいただいています。今後も暮らしや環境に寄与する製品づくりを目指していきます。



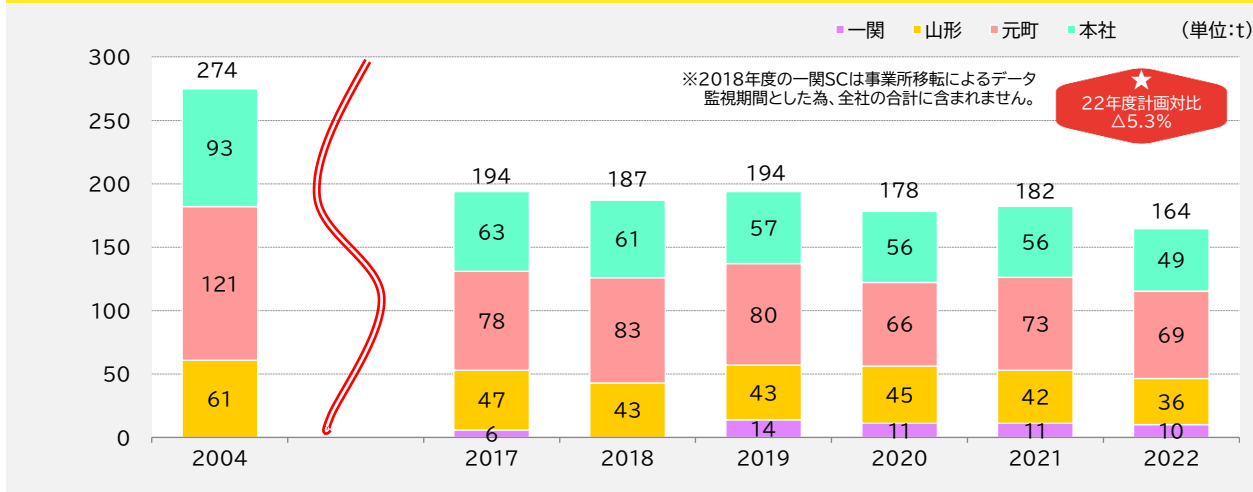
# 7

# 地球温暖化ガスの排出削減



当社は、事業活動によって生じるあらゆる環境負荷の低減に努めています。中でも地球温暖化ガスの削減は世界の課題であり、当社でも重点項目と位置付けています。2022年度の二酸化炭素の排出量は164tで、計画対比で5.3%の削減となりました。ただし今回は本社・元町において工場移転による引っ越しが含まれるため、この2拠点については3月までの実績で評価を行っています。

## 地球温暖化ガスの排出削減推移

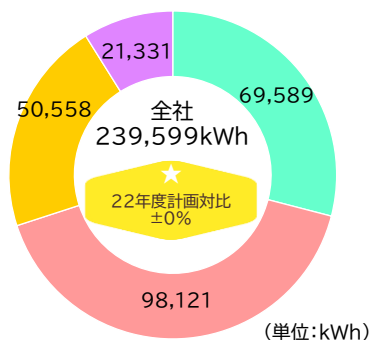


## 個別のエネルギー使用の内訳

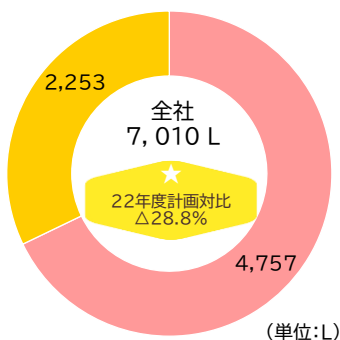
地球温暖化ガスの内訳としては、計画対比で、電気使用量 $\pm 0\%$ 、灯油使用量28.8%減、ガソリン使用量3.6%減となりました。灯油は冬場の

の暖房にしか使用しておらず、暖冬の影響で大幅削減となりました。電気・ガソリンについてはおおむね計画通りの使用量となっています。

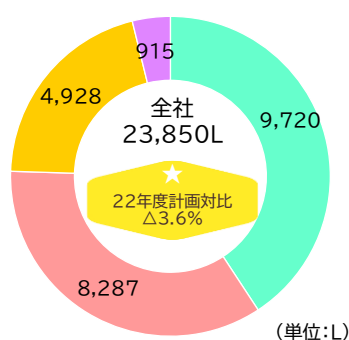
### ★ 電気使用量の削減



### ★ 灯油使用量の削減

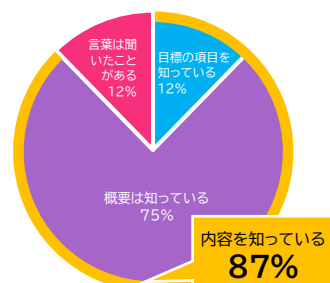


### ★ ガソリン使用量の削減

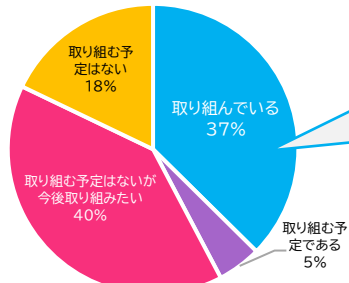


持続可能な開発目標(SDGs)が世界の課題となっています。当社でもISO活動の中で取り組んでおり、全社員への意識調査を昨年に続き実施しました。今年は1段深く、会社以外での各自の取り組みについて聞いてみました。

Q1.あなたはSDGsについてどの程度知っていますか？



Q2.個人または家族でSDGsに取り組んでいますか？(会社以外での取り組み)



Q3.具体的にはどのような活動に取り組んでいますか？

- ・ゴミの分別・削減、節水、節電
- ・地域活動(ゴミ拾い、除草活動、海岸清掃等)
- ・使い捨て製品の使用を避ける
- ・マイボトル、マイバックを持ち歩く
- ・スーパーの回収BOX等の利用
- ・再生可能エネルギー(太陽光等)の導入
- ・車の利用を控える、自転車通勤等
- ・エコドライブ
- ・フードロスの削減(買いすぎない、作りすぎない)
- ・食品類は手前からとる
- ・不要な衣類の寄付



# 8

# その他の環境負荷低減活動

## SDGs No



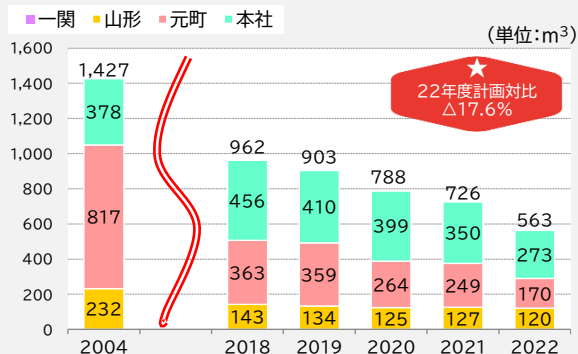
当社では地球温暖化ガスの低減の他、省資源活動と廃棄物の排出削減活動を行っています。これらの活動はすでに社員へ定着したため、維持活動としており、削減状態の維持に努めています。

※2022年度の本社・元町のデータは、4月からの工場移転による引越しの為、3月までの実績で評価しています。

## 省資源活動

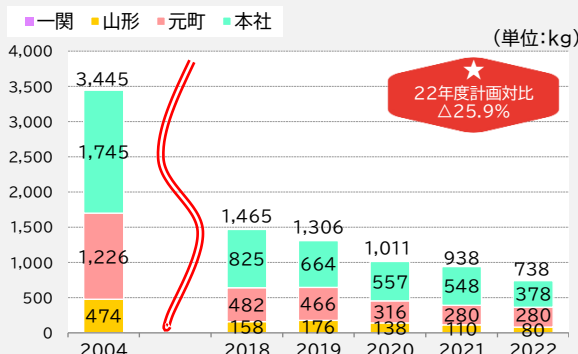
### 節水活動の推進

2022年度の水道使用量は563m<sup>3</sup>で、指標対比△17.6%となりました。水は基本的に生活系での使用しかないので、本社・元町は工場移転による減少と思われます。



### 紙資源の削減

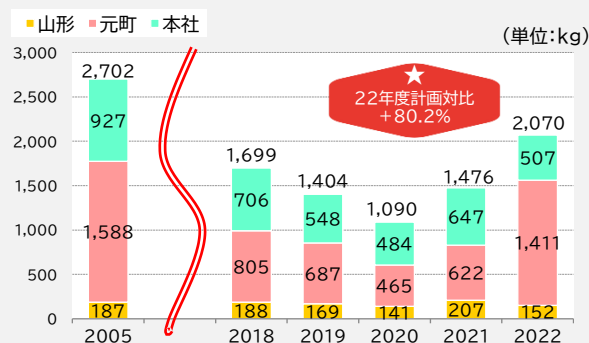
2022年度のコピー用紙等の紙購入量は738kgであり、指標対比25.9%の削減となりました。書類の電子化が徹底されてきており、紙の使用は継続的に減少しています。



## 廃棄物の排出削減

### 一般廃棄物

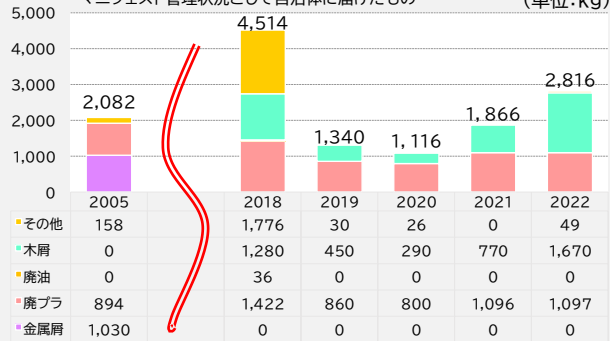
2022年度の一般廃棄物排出量は2,070kgとなり、指標対比80.2%増となりました。これは元町での移転準備によるところが原因であり、通常の排出は例年通りとなっています。



### 産業廃棄物

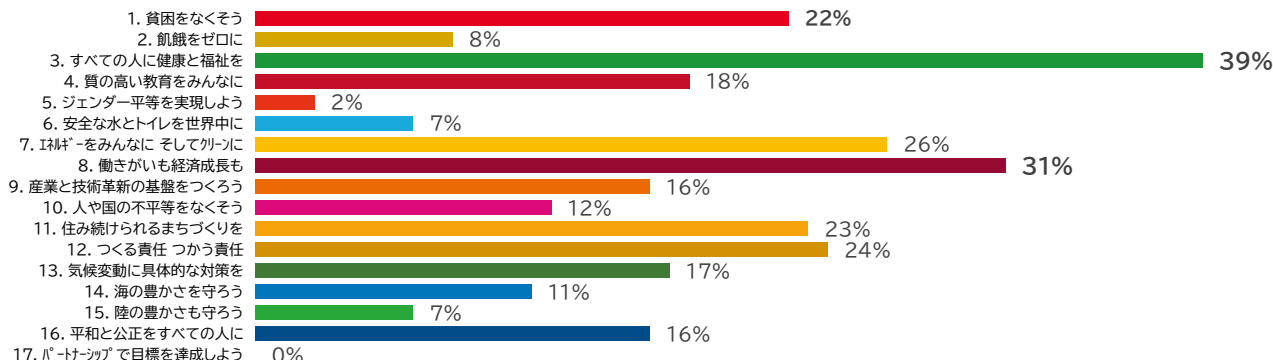
2022年度の産業廃棄物の排出量は2,816kgでした。こちら移転に伴う排出が増加したものと見ています。

※2022年度実績は2022年4月～2023年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの



結果、多くの社員が取り組みに前向きであり、それぞれの生活の中でSDGsに繋がる取り組みを行っていることが分かりました。

### Q4. SDGsの具体的な目標（ゴール）のうち、どの目標に関心がありますか？（3つまで）



# 9 環境教育

SDGs No



当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。新型コロナウイルス流行後には、基本的に拠点間移動は行わず、Webを活用したリモート教育形式をとっており、社員へ定着しました。

## ●環境教育の実施

※下表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました

教育名	実施部門	実施日	受講者数
管理職・一般社員教育	品質管理課 (推進責任者)	全社 ~8月16日	119名
新入社員教育	品質管理課	本社 4月6日	5名
専門分野別教育			
内部環境監査員フォローアップ教育	品質管理課	全社 8月25日	12名
廃棄物保管管理者教育	品質管理課	本社 5月15日	1名
業務用空調機点検管理者教育	品質管理課	一関 11月 4日 本社 5月11日	1名 1名

2023年  
4月

## 新入社員教育

2023年4月に新入社員5名を対象とした、品質・環境ISOの取り組みや活動について教育を行いました。



新入社員

2022年  
8月

## 内部環境監査員 フォローアップ教育

内部監査実施前に監査員へ向けたフォローアップ教育を実施しています。重点監査項目の伝達や、監査チームの力量向上を狙っています。



上期教育の様子(リモート含む)

2023年  
5月

## 専門教育 廃棄物保管管理者教育

新たに任命された本社の廃棄物保管管理者を対象とした教育を行いました。各工場に管理者を置き、確実な管理を行っています。



教育の様子

2022年度  
11月-5月

## 専門教育 業務用空調機点検管理者教育

フロン排出抑制法への対応の為、簡易点検等の対応を行う管理者教育を行いました。法的要求と社内ルールについて理解し、対応を行います。



11月教育の様子(リモート)

# 10 環境監査

当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

## ● 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001(2015年版) 維持審査	外部審査機関による ISO14001(2015年版)維持審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査(全職場)	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 安全衛生を含めての総合監査	年1回

★  
2022年  
10月

## ISO14001(2015)維持審査

2022年10月に受審した維持審査では不適合はなく、認証維持しています。  
また、アドバイス事項に関しても積極的に改善に結び付けるために対応しました。



トップインタビュー風景



現場審査(本社)

★  
2022年  
9月

## 内部環境監査

2020年度から環境と品質合同の内部監査を実施しています。現場とリモートをうまく組み合わせ、  
効率的な監査を心がけています。



山形

★  
2022年  
10月

## 環境管理責任者 巡回パトロール

2022年10月に行った環境管理責任者主催の  
パトロールでは全ての拠点を回り、環境・品質・安全の3つの観点から監査を実施しています。



元町

★ ★ ★  
SDGs No



当社では環境負荷の大きな施設・設備や化学物質の取り扱いはありませんが  
コンプライアンス意識を持ち、各種活動を行っています。

## ●緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性がある要因として灯油の漏出事故を掲げています。  
今年度も給油の際の漏出事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形

## ●第一種特定製品の簡易点検実施

当社では、フロン排出抑制法に則り業務用エアコン等の第一種特定製品の「簡易点検」を実施しています。  
一定規模以上の製品については「定期点検」も実施しており、次回は2024年に予定しています。



簡易点検チェックシート、冷媒漏えい点検・整備記録簿



定期点検の様子

## ●法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありません。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

## ●当社に適用される環境法規制等

当社は、各工場において適用される環境法規制等についてリストを作成し、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

環境法規制等一覧			
大気汚染防止法 水質汚濁防止法 省エネ法 廃棄物処理法 毒物及び劇物取締法	家電リサイクル法 建設リサイクル法 労働安全衛生法 (鉛則、有機則) 消防法	フロン排出抑制法 自動車リサイクル法 宮城県公害防止条例 山形県環境保全条例 岩手県環境保全条例	仙台市公害防止条例 山形市環境条例 一関市環境条例 仙台市火災予防条例 山形市火災予防条例 一関市火災予防条例

(努力義務は除く)

# 12 環境コミュニケーション



当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、また社内向けには社内イントラネット、環境安全衛生ニュースの発行を継続しています。

## ●当社のステークホルダー



## ●情報発信

### 環境・安全報告書

当社の環境と安全衛生活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第18回目となります。

### 環境・安全衛生ニュース(エコ生活情報)

環境・安全衛生ニュースは、社員への情報提供として視覚的で分かりやすい方法として、月1回の発行を継続しています。

### ホームページ/社内イントラネット

当社ホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示するとともに、社内向けにはイントラネットに環境に関わる帳票等を開示しています。



凌和電子ホームページ



環境ニュース



山形まるごとCOOL CHOICE事業所登録証

## ●地域、行政活動への参加、協力

### Fun to Shareへの参加

当社は低炭素社会の実現に向けた国民運動である気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同し、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

### エコにこゴールドマイスター

当社は仙台市のエコにこマイスター認定制度に登録し、より積極的に環境活動に取り組む企業として「ゴールドマイスター」の認定を受けました。

### 山形まるごとCOOL CHOICE事業所

山形工場では、COOL CHOICEに賛同する企業として、山形市の取り組みである「山形まるごとCOOL CHOICE事業所」に登録しています。



当社での賛同・登録キャンペーン

当社には4つの工場があり、それぞれ連携しながら仕事をしています。各工場に所属する部署単位で独自目標を設定し、仕事の内容に沿った活動を展開しています。社員が自ら目標とSDGsとの関連を意識し、レベルアップに向けて取り組んでいます。

## 本社

★  
HEAD  
QUARTERS

本社では、2023年5月までは購買や営業等のスタッフ業務担当の他、設計・開発等の技術部隊が所属していました。5月以降はそれらの部隊がテクノワークス仙台東へ移転し、本社としては総務・経

理のみの在籍となっています。独自の活動としては廃棄物削減や書類の電子化を実施しましたが、仙台市へ登録中の「エコにこゴールドマイスター」や「まち美化活動」等の社会貢献は継続しています。

### 仙台まち美化活動



令和元年度にはまち美化活動の継続が評価され、仙台市公衆衛生功労者として感謝状をいただいています。その後も継続して活動を続けています。



活動の様子

### エコキャップ運動



「世界の子どもにワクチンを」の考えに賛同し、本包含め全工場でエコキャップ運動を行っています。本社では地元企業様に寄付し、活動に協力しています。



回収キャップ

## 元町工場(テクノワークス仙台東)

★  
MOTOMACHI  
FACTORY

元町工場は2023年5月に所属する工業団地の移転に伴い、「テクノワークス仙台東」として新しく移転・稼働を開始しました。元々の設計・製造部隊に加え、本社から営業・購買・品質管理等のスタッフ

部門も合流し、凌和電子で一番の大所帯となっています。2022年度は設計の中での環境性能アップや設備の長期使用化、また社会貢献としてインターンシップの受け入れ等積極的に行っています。

### 開発製品のメンテナンス性の向上、小型化・軽量化



研究開発を行う部門では、製品のメンテナンス性向上や小型・軽量化に取り組んでいます。納入済みの製品も視野に入れ、長期使用化を目指しています。



製品事例

### インターン、工場見学の受入



元町工場では学生の要望に合わせて、見学や実習体験を受け入れています。テクノワークス仙台東に移転後も活動は続けていく予定です。



実習風景



# 山形工場

山形工場は、設計・製造両方の部隊が所属しています。2022年度は当社製品を長く安心して使用していただくため、納入済みの特定製品についてメンテナンスを計画しています。装置の安定稼働へ貢

献していく予定です。また、環境・品質を連動させて製品のライフサイクルに関わる改善にも努めています。社会貢献としては、山形工場でもインターンシップを受け入れ、職場体験の場を提供しています。

## メンテナンスによる装置安定稼働



継続的に納入している特定製品について、メンテナンスを行うことにより、安定したパフォーマンスで長くご使用いただけるよう計画しています。

製品名	納入日	メンテナンス予定日	実施状況	担当者
製品A	2022/01/15	2023/01/15	完了	鈴木 僚
製品B	2022/02/01	2023/02/01	完了	佐藤 恭兵
製品C	2022/03/10	2023/03/10	完了	鈴木 僚
製品D	2022/04/20	2023/04/20	完了	佐藤 恭兵
製品E	2022/05/05	2023/05/05	完了	鈴木 僚
製品F	2022/06/15	2023/06/15	完了	佐藤 恭兵
製品G	2022/07/25	2023/07/25	完了	鈴木 僚
製品H	2022/08/10	2023/08/10	完了	佐藤 恭兵
製品I	2022/09/20	2023/09/20	完了	鈴木 僚
製品J	2022/10/05	2023/10/05	完了	佐藤 恭兵

メンテナンス  
チェックシート例

## インターンシップの受入



山形工場では地元の高校生・短期大学生のインターンシップを受け入れています。学生の未来にこの体験が役立つことを期待しています。



実習風景



# 一関システムセンター

一関システムセンターは設計部隊のみが所属する小規模な事業所です。環境負荷低減を考慮した設

計や、部品在庫の管理適正化を図り、環境配慮を心がけています。また周辺清掃も継続実施しています。

## 環境負荷低減設計



エレキ設計において、小型化・省電力化・長寿命化・有害物質の不使用等を考慮した設計を実施しています。



※イメージ画像

## 工場周辺清掃



社会貢献活動の一つとして、少人数ではありますが周辺清掃を行っています。



活動の様子

# VOICE

## ●メンテナンスによる 装置安定稼働

山形工場技術課では、納入した特定製品の定期的なメンテナンスを計画しています。お客様の日常点検では手の届かない部分をメーカーとしてフォローし、長く安心してご使用いただくことを目指しています。お客様との信頼関係も大切な成果の一つと考えています。



技術課  
●鈴木 僚●



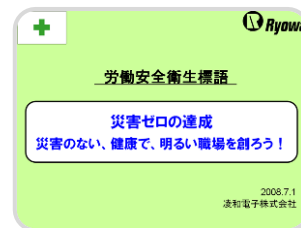
機械技術2課  
●佐藤 恭兵●

## ●環境負荷低減設計

機械技術2課ではエレキ設計の中で環境配慮の視点を意識しています。例えばネジを減らすことは小型化・作業の効率化・メンテナンスの容易化等に繋がります。リピート品についても部品の置換えで環境負荷を減らすことができる等、ポイントを押さえて仕事の中に生かすようにしています。

# 14 安全衛生管理

当社は、「災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)」を標語とし、安全衛生計画に則った活動に取り組んでいます。労災ゼロを目指し、職場環境の改善や安全の為に安全衛生委員会を開催しています。また、事業継続計画(BCP)を策定し、社員への展開を図ると共に災害への備えを進めています。



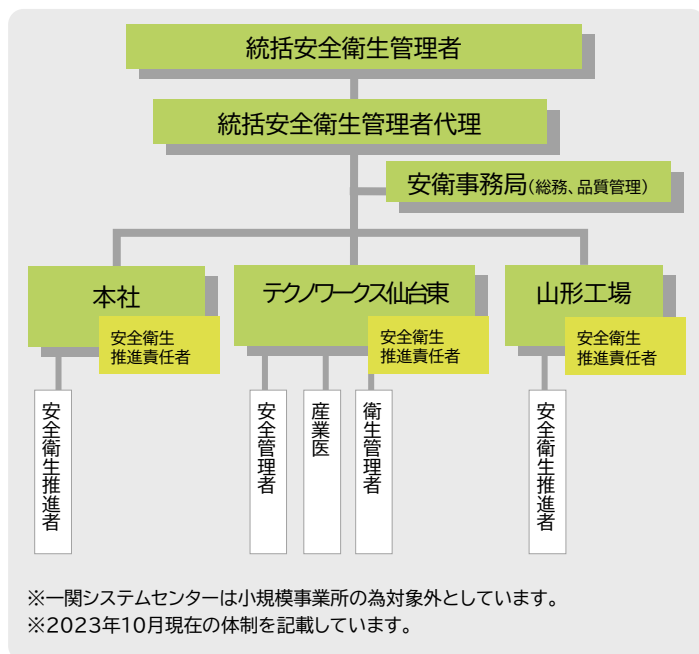
## ●安全衛生活動計画と実績

2022年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

## ●安全衛生管理体制

社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場毎に推進責任者及び法定管理者を定めています。



## ●安全衛生委員会

全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。工場の委員会では社員からヒヤリハットをはじめとした様々な意見を吸い上げ、改善を図ります。工場パトロールも隔月実施しています。

## ●健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣病予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。2022年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。

工場	受診率
本社工場	100%
元町工場	100%
山形工場	100%
一関SC	100%



## ●防災訓練

各工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しています。各地で災害が多発する昨今、事業所の規模に関わらず災害リスクはあるため、一関SC(5名程度の事業所)でも他工場と同様に防災訓練を実施しています。

### ■本社



### ■テクノワークス仙台東



### ■山形



### ■一関



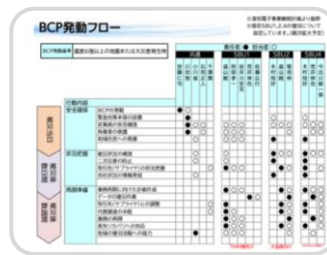
## ●安全衛生教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。



## ●BCPの対応

当社では東日本大震災をきっかけに事業継続計画(BCP)を策定し、2013年度より運用を行っています。



BCP発動フロー

事業の継続・早期復旧を図るため、発動フローを用意し災害に備えています。また、災害伝言ダイヤルや緊急連絡網の訓練の機会を設け、緊急時に使用できるように全社員へ周知しています。

## ●テクノワークス仙台東への移転

2023年5月より、テクノワークス仙台東が開業いたしました。元町工場メンバーと本社メンバーの一部が移転し、凌和電子で最大の生産拠点となりました。安全衛生についても50名以上の事業所として運用を開始しています。



開所式



安全衛生委員会



安全パトロール



産業医の巡視

## ★ ★ ★ VOICE 新拠点への移転

テクノワークス仙台東への移転が無事に終了し、5月から稼働がスタートしています。従業員の数も増え、50名以上の事業所として安全衛生活動も進めています。衛生管理者や安全管理者、産業医等の選任の他、定期巡視やストレスチェック、今後義務化されるアルコールチェック等の必要な対応

も順次実施していく予定です。月1回の安全衛生委員会では各部署からメンバーを選出し、それぞれの立場・視点から自分事として改善点を出し合っています。リソースは有限です。モノづくりの会社らしく、従業員の創意工夫をもって良い職場づくりに向けた改善を進めていきます。



機械技術2課  
● 新谷 浩行 ●

# 15 会社概要

社名	凌和電子株式会社	
創立	昭和47年7月28日	
資本金	7000万円	
役員	代表取締役社長	安藤 仁司
	取締役会長	安藤 正如
	取締役	川田 智
	取締役	木村 恒好
	取締役	板垣 篤
	監査役	大河原 茂紀
		(2023年10月1日現在)

事業内容	計測/検査器設計製作
	計測/検査システム設計製作
	画像検査/処理システム設計製作
	データ収集/管理システム設計製作
	磁気特性計測システム設計製作
	各種プリント基板設計製作
	各種アセンブリ(試作、量産)
	リペア&メンテナンス

沿革	1972(S47)	凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
	1989(H1)	仙台市鶴代町に東部工場開設
	1999(H11)	山形市高原町に山形工場を建設
	2000(H12)	仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
	2001(H13)	ISO9001:1994認証取得
	2006(H18)	ISO14001:2004認証取得
	2006(H18)	東部工場を元町工場に併合
	2009(H21)	株式会社サンユー技研(山形県長井市)をM&A
	2012(H24)	一関市狐禅寺に一関システムセンター開設
	2013(H25)	一関システムセンターISO9001、14001拡張審査受審(認証取得)
	2017(H29)	一関市東台に一関システムセンター移転
	2023(R5)	仙台市若林区六丁目字南にテクノワークス仙台東を開設

## 所在地

### 一関システムセンター

岩手県一関市東台14番地43  
一関ロジスティクスセンター4階



### 本社

仙台市若林区南材木町48番地



### 山形工場

山形市高原町1483番1号

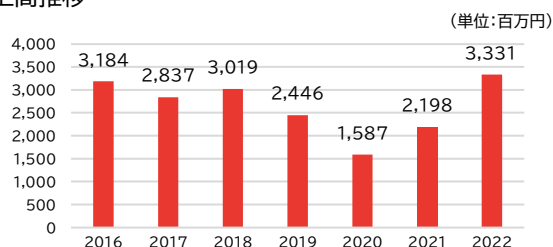


### テクノワークス仙台東

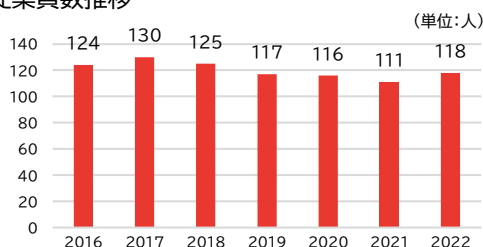
仙台市若林区六丁目字南27番1号  
先2街区3画地



## 売上高推移



## 従業員数推移



## INPUT 全社 OUTPUT

電力: 239,599kWh

ガソリン: 23,850リットル

灯油: 7,010リットル

水: 563t

紙: 738kg

事業活動

二酸化炭素: 164t

一般廃棄物排出量: 2,070kg

産業廃棄物排出量: 2,816kg

排水量: 563t

## INPUT 本社 OUTPUT

電力:  
69,589kWh

ガソリン:  
9,720リットル

水: 273t

紙: 378kg

事業活動

二酸化炭素: 49t

一般廃棄物排出量:  
507kg

排水量: 273t

## INPUT 元町 OUTPUT

電力:  
98,121kWh

ガソリン:  
8,287リットル

灯油: 4,757リットル

水: 170t

紙: 280kg

事業活動

二酸化炭素: 69t

一般廃棄物排出量:  
1,411kg

産業廃棄物排出量:  
2,439kg

排水量: 170t

## INPUT 山形 OUTPUT

電力:  
50,558kWh

ガソリン:  
4,928リットル

灯油: 2,253リットル

水: 120t

紙: 80kg

事業活動

二酸化炭素: 36t

一般廃棄物排出量:  
152kg

産業廃棄物排出量:  
377kg

排水量: 120t

## INPUT 一関 OUTPUT

電力:  
21,331kWh

ガソリン:  
915リットル

事業活動

二酸化炭素: 10t

※本社・元町は2023年4月から移転・引っ越し対応の為、3月までの実績としています。



**凌和電子株式会社**

〒984-0805

宮城県仙台市若林区南材木町48番地

URL :<http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

お問い合わせ:品質管理課(石垣・永峯)

TEL:022-287-1041 FAX:022-287-1043

発行:2023年10月 次回発行予定:2024年10月